

(2) 苗木の誤伐対策

広葉樹は下刈りの際に誤伐されやすいため、植栽時に目立つ支柱を設置します。

(3) 後生枝対策

後生枝（こうせいし）は、幹に強い光が当たった場合に発生する枝で、材の価格を低下させます。発生を予防するためには、周囲を急激に疎開させないようにします。

(4) クワカミキリによる被害

ケヤキの一斉林に見られる病害虫として重要なのは、穿孔性害虫であるクワカミキリです。ケヤキは、枝を落とすとテッポウ（クワカミキリなどの穿孔性害虫）が入ると言われていますが、これは太い枝を落とすと、クワカミキリが産卵しやすい細い枝が多数発生するためです。

したがって、太い枝を落とす場合には注意が必要です。



クワカミキリ

4 スギとの混植によるケヤキ育成のメリット、デメリット

(1) メリット

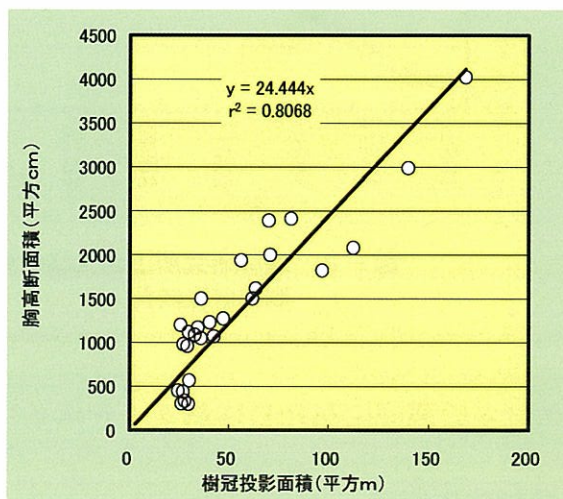
- ・一斉林に比べてケヤキの苗木本数が少なくすみ、枝落とし等の作業を集中できる。
- ・スギと競争させることにより、通直で枝下が長い質の良い材の生産が可能となる。
- ・ケヤキが病虫害等の被害を受けた場合には、スギ一斉林として木材生産を継続することが可能である。

(2) デメリット

- ・施業例、情報が少ない。
- ・スギとケヤキをうまく競争させるためには立地に応じた集約的な施業が必要となる。

樹冠投影面積と胸高断面積の関係

森林研究所内の40～50年生とみられるケヤキ27本の樹冠投影面積と胸高断面積の関係を右図に示しました。両者の間には高い相関が認められ、樹冠投影面積が100平方mの場合には、胸高断面積はおよそ2,400平方cm、胸高直径に換算すると約55cmとなることが予想されます。なお、生産目標の一例として、長さ4m、30cm角の柱が採材可能な原木の胸高直径は59cm（末口径46cm）であり、年間の直径成長量を5mmとしても、10年程度で生産目標に到達すると予想されます。



森林研究所内のケヤキ27本の樹冠投影面積と胸高断面積の関係

(執筆者 千葉県農林総合研究センター森林研究所 福島成樹)

農林水産技術会議
技術指導資料
平成22年2月

スギとの混植によるケヤキの育成技術



千葉県農林水産技術会議